

令和2年度 教育課程特例校実施状況(自己評価・学校関係者評価)

聖隷クリストファー小学校は、日々変化を遂げる国際社会の中で活躍するために必要な高い英語力と能力、知識を備えた人材を育成するため、国語及び社会の教科以外の授業を外国人教員による英語で行う英語イマージョン教育を行うことと、図画工作、外国語活動の時間、総合的な学習の時間の一部を英語科の時間に充てる教育課程特例校としての認定を受けています。教育課程特例校は、特別の教育課程の実施状況に対する自己評価と学校関係者による評価を毎年公表することになっています。

	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
英語イマージョンで行う特色ある学び	英語イマージョン環境の充実	① 日本人教員と外国人教員の二人による学級指導体制とする。 ② 朝の礼拝時に英語の讃美歌に触れる。 ③ 掲示物等に効果的に英語を用いる。 ④ 英語図書を揃える。 ⑤ 外国人教員は原則的に常に英語を用いる。 ⑥ 教員と児童・保護者間の連絡ツールで英語を用いる。 ⑦ ICT を効果的に用いる。	B	① 日本人教員と外国人教員が、役割分担して朝の会・帰りの会を行うなど、英語イマージョン環境の確保に有効に働いた部分も大きいですが、両教員間で意思疎通がうまく図れないこともあった。今後はペアを組んでいる教員同士のミーティングの時間をさらに確保していきたい。 ② 児童が英語の歌を覚える吸収力は目覚ましく、英語の讃美歌に触れることは英語学習にも有効だった。今後も継続したい。 ③ それぞれの担当が工夫を凝らしていたが、さらに充実することが望まれる。常に言語習得を意識した掲示物を作成するよう心掛けたい。 ④ 英語の蔵書は段階的に揃える予定であり、現時点において必ずしも十分な数があるとは言えない。今後、計画的に探究学習の資料になるような書籍を増やしていく。 ⑤ 外国人教員は概ねオールイングリッシュで授業ができていた。 ⑥ 外国人教員が英語で学習報告をするなど、有効に活用できていた。今後も継続したい。 ⑦ iPad を用いて英語多読を行う等、ICT を有効に活用できていた。	B	英語で学ぶ環境が様々な工夫により整えられ、自然な流れの中で英語を聞く力が向上し、英語で話し返す姿も見られるようになった。今後は習熟度に応じた指導も加えていく必要があると考えられる。

※評価点は、A(十分に効果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった)

	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
英語イマージョンで行う特色ある学び	英語による探究的な学び	① 教科の枠を超えた学びを英語で行う。 ② 教科学習の中で、英語で探究的学びを展開する。 ③ 児童の学びに対し形成的評価を行い、個々の英語力に合わせた指導を展開する。 ④ 英語イマージョンコーディネーターを配置し、教員の指導力向上を図る。	B	① SIP (Seirei Inquiry Program)を展開し、テーマを軸とした教科等横断型探究授業を実施したが、その内容や成果は学年・クラス間で差があった。今後は教員の研修やミーティングの時間をさらに確保し、協働的に学校全体として統合性のあるカリキュラムを構築していきたい。 ② 英語を用いる教科の中では児童が体験的に英語を身に付けることができていた。 ③ 一斉授業に偏らない授業展開を試みたが、十分には実施できなかった。授業の中で個々の能力に合ったタスクに取り組みさせることができるよう、指導の工夫を行っていく必要がある。 ④ 英語イマージョンコーディネーターの指導により、各教員が自分の課題を見つけ、指導力の向上につなげることができた。	B	英語での探究的な学びには相応の準備が求められるが、教科内、教科等横断型授業双方について計画的実施の研究を深めることが望まれる。

※評価点は、A(十分に効果があった)・B(効果があった)・C(少し効果があった)・D(効果がなかった)